

新潟脳神経研究会第 309 回例会

日時：平成28年12月13日（火）午後6時～

場所：脳研究所 1階 検討会室

1) GABA 受容体の研究からわかる脳の恒常性の仕組み (30分)

照沼 美穂 (新潟大・院・医歯学総合・口腔生化学分野 教授)

抑制性神経伝達に重要なGABA受容体は、様々な神経・精神疾患に関与する。近年この受容体が神経細胞だけでなくグリア細胞にも発現していることが確認され、多面的に脳機能に関わることがわかってきた。今回は発表者がこれまで行ってきたGABA受容体の機能制御の研究について発表するとともに、現在進行中のプロジェクトについても紹介したい。

2) Temozolomide 耐性 GBM 細胞増殖抑制薬探索の為の化合物スクリーニングと EUrd の検討 (30分)

塚本 佳広 (新潟大・脳研・脳神経外科学分野 特任助教)

Glioblastoma (GBM)は Temozolomide (TMZ)投与中にも関わらず再発して患者を死に至らしめる。我々は TMZ 耐性 GBM-initiating cell を再発モデルとして樹立し、化合物スクリーニングを施行した。その結果、新規治療薬候補 EUrd を約1300 種の化合物ライブラリから抽出し、その効果と作用機序の解析を行ったので報告する。

3) 筋萎縮性側索硬化症の関連蛋白 TDP-43 のロバストな自己制御機構とその脆弱性 (30分)

須貝 章弘 (新潟大・脳研・神経内科学分野 特任助教)

核蛋白である TDP-43 は、その発現量を自己制御しているが、筋萎縮性側索硬化症の運動神経では細胞質内に異常蓄積する。我々は、核内 TDP-43 量維持のためのロバスト性をもつ自己発現量制御機構は、ある種の擾乱因子に対しては脆弱性を有し、この機構そのものが病態形成と進行に寄与するという TDP-43 量制御に関するトレードオフ仮説を提唱する。

どうぞ奮ってご参加ください。

(担当：分子神経疾患資源解析学分野)
新潟脳神経研究会幹事代表：那波宏之